

2015年3月10日

腸管免疫システムの発達に関わる腸内細菌探索系の開発と セグメント細菌の特定に関する研究がJIDF光岡賞を受賞

株式会社ヤクルト本社（社長 根岸 孝成）では、3月3日に開催された国際酪農連盟日本国内委員会（JIDF）の平成26年度国際会議出席報告会において、当社中央研究所の研究者が平成26年度JIDF光岡賞を受賞しましたのでお知らせします。

JIDF光岡賞は、2007年に光岡知足博士（東京大学名誉教授、理化学研究所名誉研究員）がIDFメチニコフ賞^{※1}を受賞された際、光岡博士のご意思により、JIDFへ寄付された賞金を基に2008年に設けられた賞です。同賞は、腸内細菌ならびにミルクサイエンスの研究において優れた業績を挙げ、かつIDFならびにJIDFの活動に理解と協力した者に対して授与されるものです。

このたびの受賞の詳細は、下記のとおりです。

※1：「ヨーグルト不老長寿説」を主張したノーベル医学生理学賞受賞者メチニコフの著書出版100周年を記念して、2007年、国際酪農連盟（IDF）がパスツール研究所（仏国）およびISAPP（International Scientific Association for Probiotics and Prebiotics）の協賛を得て設けた国際賞。微生物学、バイオテクノロジー、栄養と健康の3部門で優れた業績を挙げた科学者に授与された（光岡博士は、微生物学部門での受賞）。

記

1. 受賞者

梅崎 良則（中央研究所 特別研究員）

2. 受賞研究

腸管免疫システムの発達に関わる腸内細菌探索系の開発とセグメント細菌の特定

3. 受賞研究概要

腸内細菌と腸管機能の関連の解明やプロバイオティクスを利用した発酵乳の有効性の認知拡大に貢献した当研究所の長年の取り組みと、これまでのJIDF活動への貢献が高く評価され、今回の受賞となりました。主な受賞研究概要は、以下のとおりです。

- ◆ 無菌マウスと通常マウスとの粘膜免疫系の形質に着目し、腸粘膜免疫系の発達に重要な役割を果たすセグメント細菌^{※2}を見出した。

※2：分節した形態を有する繊維状の腸内細菌。ヒトでは存在がまだ不明確だが、哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類、昆虫など多くの生物の腸に存在する非病原性の常在性細菌であることが知られている。同細菌は、消化管粘膜、特に小腸の機能の発達に重要な細菌と考えられている。

- ◆ セグメント細菌の単独定着マウス（ノトバイオオートマウス）による研究は、腸内細菌の腸管免疫系に対する役割を明らかにするとともに、腸内細菌が関与する疾病のメカニズム解明に貢献した。
- ◆ 腸内細菌叢の異常を伴う腸の炎症性疾患に対してプロバイオティクス発酵乳が有効であることを実証した。

以上